

N P O 法 人

子どもの虐待防止 ネットワーク・かがわ

ニューズレター No.15



「誰が一番好き？」と子どもに聞かれたら・・・

私には子どもが3人います。長女と次女は年子で生まれ、それから3年あけて三女が誕生しました。年の近い3人の子育ては、一度に大変な時期が押し寄せ、気がつくとも潮が退くように去っているという感じでした。

25年前、おむつは布を使用していたので、朝、大量のおむつの洗濯からはじまり、食事の用意、掃除そして子どもを遊びに連れて行ったり買い出し等、24時間、365日必死に走り回っていたように感じます。

日中は、どこに行くのも何をするのも母と子が一緒です。子どもの成長に伴って、お互いの間に競争心が芽生え、長女は妹と比べて「どっちが好き？」と尋ね、妹は妹で姉と比べて「どっちが好き？」と質すようになってきました。聞かれた私は、当然、「どっちも好きだよ。」と答えました。この答えに満足がいかなかった二人は、再三同じ質問を繰り返してきます。納得させられる答えがわからないまま、「忙しいときに限って、もお～！」と気になりながら今まで持ち越していました。あなたならどう答えてあげますか？また、二人同時に質問してきたら？

私の知っているお子さんで、お母さんの前にいるときの態度と私が感じている態度に大きな違いが見られることがあります。普段活発なその子の、母親の前では母がいなくて寂しかったような、時には泣いて同情を買うような態度を見たとき、ふと自分の子育ての時に受けた「どっちが好き？」という質問が頭に浮かんできました。25年前、質問をした我が子がどういう気持ちでいるのかについては考える余裕はなかったですが、母親に受け入れられたいと一生懸命振る舞う子どもと同様に、認められて安心したかったのではと、25年前の質問に対する答えが見えたような思いになりました。それと同時に、子どものけなげさに抱きしめてあげたい気持ちになりました。(T. I)

— 朝日新聞厚生文化事業団子どもへの暴力防止プロジェクト助成事業 —

母親グループミーティング“ひだまり”を開催します。

お母さんが、お子さんと少しの間離れて、

悩みや不安な気持ちを **ありのまま** 語り合う場です。

(月に1回)

毎日毎日、子ども相手の生活・・・寝てくれない、泣きやまない・・・

思い通りに家事ができない・・・気持ちに余裕がない・・・育児なんてもういや！

そんなあなたのしんどい思いを話してみませんか。

問い合わせ；Eメール hidamari9999@yahoo.co.jp

または TEL 087-888-0758 (火・木 10時～15時)

FAX 087-888-1070



「子どもの虐待の背景にあるもの～母性の発達とその援助～」

講師：村中 由紀子氏（山陽学園短期大学教授）

プラスのことばの大切さ

130人の聴衆でうまった高松市役所13階大会議室、流れるような村中先生の話は1時間半、私たちがひきつけたままあっという間に過ぎた。

一昔前の女性たちは自分の思い通りになることがほとんどなかった。子育ても例外でなかった。家、姑、因習の色濃く残る中で、いろんなことに「折り合い」をつけながらけなげに生きてきたのだ。

現在、面倒な家組織、近所との関わりから解放された自由な私たちの前に、自分の思い通りにならないものが出現する。自分の子どもだ。「折り合い」をつけることが苦手になった私たちは思い通りにならない子育てに戸惑う。自分が産んだ子どもが、自分の意に沿わない。私の子どもだから私の分身だというのは、思い違いであると村中先生は指摘する。母になる者の最初の覚悟として、子どもは自分とは別の人格であることを認めることだと説く。

また、母性についての定義だが、動物には母性はあるけども、人間には、母性は潜在的に備わっていないという説は私には新しく、興味がもてた。人間の母性は意識して創っていくものだそうだ。母性は、母親の意志力、判断力、努力で創られると著書(※)にもある。なんだか、救われる。

強調されたのは、プラスの言葉の大切さだった。みんな誰でも、過去からのプラスとマイナスとをかかえて、いれまぜて生きている。今、マイナスの行為をしている母親に説教等マイナスの言葉をかけても響かない。プラスの言葉だけが、人間を変えていける。魔法の言葉だ。

子どもを荷物のように、車のトランクにいれて、横抱きにして、保育所の縁側にどさっと置いていく母親がいる。当然朝食も与えていない。そういう母親に「お母さん、朝ごはんぐらい食べさせてくださいよ」と言ったところで、食べさせてはくれない。その母に対してプラスの言葉をかける。「お母さん、保育所に連れてきてくれて、ありがとう」「お仕事、大変ですね、いってらっしゃい」と保育者が声をかける。それによって母親が少しずつ変わっていく。批判、説教、上から目線の物言いはマイナス行為をしている母親に届かない。それは電話相談そして、育児支援をするうえでも大切なことだ。プラスの心と言葉と行動で相手を変えていける。

また、大切にされた経験がある人は他の人も大切にすることができる、と説く。では大切にされなかった人は、子どもを可愛がるができないのだろうか。そうではない。どんな人もマイナスだけで埋まっている人はいない。少しのプラスの部分を持っている。それを引き出し、思い出させ、プラスを増やしていくことが、援助者の役目であると村中先生は主張する。マイナス因子をプラスに変えていく。それは、プラスの心と言葉と行動で接することによって塗り替えられる援助の方法であると話された。

(丸尾 聡子)

※ 村中由紀子著

「お母さんの子育て心理学 上」

山陽新聞出版，1992





日本虐待防止学会 第 14 回学術集会 ひろしま大会に参加しました。

H20.12.12～12.14

分科会：子どもの虐待と貧困についての報告

経済的問題がある場合の傾向)

父親側にある場合・・・生育歴に問題・精神疾患・性格・アルコール・薬物・夫婦不和・問題育児(体罰・ネグレクト)・近隣からの孤立などが多い。配偶者(妻)は知的障害者が多い・アルコール・薬物の問題・若年の親・問題育児・連れ子や内縁者がいることが多い。

母親側にある場合・・・経済的問題がある場合の傾向・・・ 核家族、母子家庭が多い。

推測される問題点)

- ・ 似かよった者同士が夫婦になることが多い。1+1=2 ではなく 1+1=0.5 とか 0.2 などになったりマイナスに作用している。問題意識が少ないかもしれないが問題は解消されにくい。子どもの数は子沢山である。避妊の有無・計画性の有無は不明である。
- ・ 施設に預けられる・親戚に育てられる・基礎疾患からくる発育や発達遅れの遅れが多い。
- ・ 発達の遅れはネグレクトではなく、基礎疾患からくる発育や発達遅れである。子どもの疾病を適切に対応せず、メディカルネグレクトが含まれるともいえる。加えて育児における栄養状態の問題・免疫力も低下し基礎疾患が多いのではないかと疑わせる。
 - ※ 基礎疾患：アトピー性皮膚炎や風邪ひき等の頻繁に医療機関に関わる病気を指す。
 - ※ メディカルネグレクト： 医療虐待。適切な医療を受けさせない、受診が遅い、薬を飲ませない、予防接種も受けさせない、などです
- ・ 母親に経済問題がある場合は、子供に起こっている問題を認識していないことが多い。例えば、父親が子どもを殴っていても防げない。問題を認識し行動を改善することが少ない。

対策)

親を受容し育児知識・技術を付与し関係機関に連絡・連携し支援する。特に、十分に食べさせ生活リズムを整えて、免疫力をいかに高めるかに注意を払う必要がある。生活保護で収入につなげても問題は解決されず、各種生活の基礎スキルがない場合も多いためその支援も必要。

(S. O)



四国学院大学子ども福祉学科

H.20.11.10

「子育て子育て支援実践論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」開放講義 2008 講師派遣

一般参加者も含んで 20 人位の人数でしたが、まず会のあゆみから現在までの活動の紹介をしました。

続いて私自身の体験から、学生さんが親になった時に少しでも自分中心でなく、我が子の幸せを考えて子育てできるような気づきになる事を願って、常日頃の生活の中で言ったりしたりしていることの中から話させてもらいました。男子学生も数人いたので子育ての父親の役割や大切さについてお伝えしました。

虐待防止について若い人に話す機会は少なく、これから親になる方たちにお話させてもらえたことは本当によかったです。ありがとうございました。

(A. K)



子どもの虐待防止支援員養成講座（全 4 講座）を行いました。

H20.10.3～10.24

① 「子どもの虐待と当会の活動の概要」

講師：NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ理事長 中添 和代 氏

②③ 「グループワーク 話の聴き方・ロールプレイ」

講師：キャリアコンサルタント 森 享子 氏

④ 「育児支援における精神科医としての関わり」

講師：香川小児病院 医師 小池 香代子 氏

★ H.20 年度の 活 動 ★

- 電話相談事業) ①電話相談カードの配布：約 8 万枚配布 ※高松市との協働事業
 ②全国一斉虐待防止電話相談 : H.20.11.4~H.20.11.9 (当会は 4 日・6 日に参加)
 啓発事業) ①支援員養成講座の開催：全 4 講座 (H20.10.3~10.24 参加者 のべ 83 名)
 ②子どもの虐待防止月間キャンペーン ( オレンジリボンキャンペーン)
 ・イオン高松 (高松市香西町) H.20.10.30 ※高松市との協働事業
 参加：カマタマーレ讃岐・高松聖ヤコブ幼稚園園児と保護者の皆様
 高松市・高松市児童対策協議会



- ・ゆめタウン高松 (高松市三条町) H.20.11.1
- ・冬のまつり (高松市番町 中央公園) ※高松栗林ライオンズクラブのご協力
- ・菓子工房ルーヴ・文具生活丸亀店のご協力にてオレンジリボン・電話相談カードの店内配布
- ③講演会：「子どもの虐待の背景にあるもの ～母性の発達と支援～」 ※高松市との協働事業
 講師) 山陽学園短期大学教授 村中由紀子氏 H.20.11.29 高松市役所 大会議室
- ④四国学院大学講師派遣 「子どもの虐待と当会の活動の概要」を講演
- ⑤香川県ボランティア NPO 交流集会 参加・活動報告 H.20.11.30
- ⑥かがわ育児の日フェスティバル 2008 への参加：さぬきこどもの国 H.20.10.19
- ⑦かがわ いいお産の日の共催・参加 H.20.11.3

「こんなことで…」と思わないで
お気軽に、お電話ください。

電話相談

子どもの虐待ホットライン・かがわ

☎087-888-0182

毎週火・木・土曜日 10:00~14:00 秘密は必ず守ります

全国 子育て・虐待防止ホットライン

ナビダイヤル **0570-011-077**
 10 時～17 時：一部地域を除き日曜・祝日は
 お休みです。
 一般電話 (3 分 8.5 円) 携帯電話 (3 分 10 円)

親子の広場「楽っ子」☆無料



利用者の声

- ・ 買い物ついでに寄れるのがいい。
- ・ 話し相手がいなかったもので、1 ヶ月待ち遠しかった。

日時 第 4 水曜日 10:30~12:30
 場所 マルナカ・パワーシティー屋島店
 2F トイザらス前

 オレンジリボン(子どもの虐待防止)運動にご協力・ご参加をいただける方や団体・企業様を募集中です！
 ※ 500 円以上のご寄付をいただいた方に、オレンジリボンバッチを贈呈しております。

 本会の活動へのご協力、ご支援をお願いいたします。

※ 振込み先) 郵便振込 口: 01630-5-2437 加入者名: (特) 子どもの虐待防止ネットワークかがわ

 「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」

高松サティ・イオン高松で毎月 11 日にお買い物時に発行された黄色いレシートを当会の箱に入れてくださると、お買い物した金額の一部が当会への寄付金になります。御協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ ニュースレター No.15 2009 年 3 月 発行

事務所 TEL: 087-888-0758 FAX: 087-888-1070

毎週 火・木 (午前 10 時 ~ 午後 3 時)

ホームページ: <http://www7.ocn.ne.jp/~kcapn/> Eメールアドレス: kcapn9999@siren.ocn.ne.jp